

二十四節気の「雨水（うすい）」を迎え、アテツマンサク（写真1）やウメ（写真2）の花が開花し、花の赤いアケボノアセビ（写真3）も西ゲート下で咲き始めました。サクラでは早咲きの修善寺寒桜の蕾が色づき始めました。日中はぽかぽかと暖かく春の兆しを感じます。

アテツマンサク（阿哲満作）マンサク科マンサク属（写真1）

マンサクの名の由来は諸説ありますが、①花をたくさんつけることから豊年満作の意、②早春に咲くため、「まず咲く・まんず咲く」からの転訛説等があります。アテツマンサクはマンサクの変種で、大正時代に当時の岡山県阿哲郡（現在の新見市）で牧野富太郎博士により発見、命名されました。基本種マンサクとの見分けのポイントは葉と花です。成葉になると葉の両面の星状毛がなくなるマンサクに対して、アテツマンサクは裏面全体に星状毛が密生し、やや白っぽく見えます。花の色は通常、萼の赤いマンサク、全体が黄色いアテツマンサクと区別されますが、個体によっては萼の赤いものもあります。

場所：さくら通り

★園内見頃状況まとめ

蕾色づく	修善寺寒桜
咲き始め	アケボノアセビ（写真3）
開花	アテツマンサク（写真1）、十月桜（写真1）、ウメ（写真2）、ヤブツバキ 他



写真1 アテツマンサク（さくら通り） H29.2.25



写真2左 白梅（苗畑） H29.2.25



写真2右 紅梅（見本園） H29.2.25



写真3 アケボノアセビ（さくら通り 西ゲート下） H29.2.25